

夏のシンポジウム報告

電気通信大学 有山 正孝

Masataka Ariyama

1984年夏のシンポジウムは『計算機と音楽』をテーマとして7月15日～17日の3日間、筑波研修センターで開催された。

事の起りは今年1月、箱根のシンポジウムにおいて同じテーマで開かれた自由討論にある。このテーマによるシンポジウムの企画は時期尚早ではないかとの懸念もあったが、拡大運営委員会で採択されることとなった。結果は発表申し込み16件、参加登録者50名と、何れも幹事の計画の上限に達する盛況であった。特に少数ではあったが音楽学の分野の研究者の参加を得、また作曲家・クラシックシンセサイザー奏者として国際的に活躍しておられる富田勲氏を囲む座談会を開くことができたのは大きな喜びであった。プログラムならびに参加者は別表に示す通りである。

今回のシンポジウムの特徴は、参加者の顔振れがいつもとは大分異なること、参加者の平均年齢がかなり若かったことであろう。そのうえテーマがしぼられていたためあって、それぞれの発表に対する討論もきわめて活発であったし、夜の自由討論も深更2時・3時までつきることなく続いた。

欲を言えばもっと多くの音楽家・音楽学者に参加していただきたいかった。それができなかったのは、事前の準備不足による。特に呼びかけの時期が遅かったため、興味を示していただいたものの既に他の予定があって参加していただかなかった方が少なくなかった。

テーマから期待される通り会期中には多くの『演奏』があり、また17日午後、筑波大学の五十嵐・三好・笹川らのグループによるコンピュータまたは人間のピアノおよびシンセサイザーの演奏会が開催され、参加者の大部分がこれを観賞した。これらの演奏の録音を報告に添付できないのは残念である。

計算機と音楽とのかかりあいはいうまでもなく1950年代から始まり、決して新しいことではない。欧米においては音楽家・音楽学者も計算機の利用に積極的であり、多くの業績が着実に積み重ねられている。

計算機と音楽といえ先づ考えられるのは自動作曲・自動演奏であるが、その他にも音楽学の立場からは楽曲の様式解析・インデックスの作成等の課題、音響学の立場からは楽音の解析・合成等の課題があり、実用的には楽譜の版下作成等が古くからの課題である。そしてこれらに関連する計算機側の課題としては、楽譜情報の入力方式または入力デバイスの開発、楽譜情報記述言語およびその処理系、楽譜データベースの構築等々の問題がある。更にこれに加えて最近は人工知能的観点から音楽理解のモデルという問題もとりあげられるようになっている。今回のシンポジウムにおいても、これらのほぼ全般にわたって発表があった。

しかし、我が国においてはこの分野に興味を持つ研究者は今のところまだ少数派であり、相互の連絡・交流の機会も十分ではないので、今後とも是非このような会合を計画してほしいという声が多くなかった。

いささか冒険的とも思われた今回のシンポジウムが成功裡に終って、幹事としての責任を果たすことはできたが、これを機会にこの分野の研究が更に活性化されればさいわいと考えている。

夏のシンポジウムは『夢のシンポジウム』とも呼ばれる。まだ海のものとも山のものともわからぬテーマについて大いに夢を語ろうというのが、その趣旨である。この『夢のシンポジウム』の生みの親である山内二郎先生は本年3月31日永眠された。今回のシンポジウムは亡き先生の初盆の、何よりの御供養であったことと思う。

プログラミング・シンポジウムの事務は長年の間、慶応工学会に委託していたが、今年度から情報処理学会事務局が直接取り扱うことになり、今回はその最初の研究集会であった。幹事団の側にとまどいがあり、我儘なお願いもして事務局には種々御迷惑をお掛けしたが、円滑にシンポジウムを終了することができた。阪元事務局長と担当の木村さんには大変御世話になった。この紙面を借りて改めて厚く御礼申し上げる次第である。

幹事

有山 正孝
五十嵐 滋
中西 正和
三浦 大亮
三好 和憲

1984年夏のシンポジウム参加者名簿

(敬称略)

| 氏名 | 所属 | 氏名 | 所属 |
|--------|--------|---------|------------|
| 富田 熱 | 音楽家 | 坪井 邦明 | 東大 生研 |
| 神前 尚生 | 音楽学会員 | 山木 毅雄 | 情報大 |
| 永井 洋平 | 日本楽器 | 高澤 嘉光 | 電通大 |
| 納本 淳 | 日本楽器 | 張 又 普 | 電通大 |
| 森 光彦 | 日本楽器 | 坂本 雅彦 | 電通大 |
| 谷 任 | 日本楽器 | * 中西 正和 | 慶大 理工 |
| 藤森 潤一 | 日本楽器 | 寺村 信介 | 慶大 理工 |
| 上田 マロカ | エプソン | 加藤 良信 | 慶大 理工 |
| 川野 洋 | 都立工科短大 | 永田 守男 | 慶大 理工 |
| 堀内 正人 | 日本ビクター | 平形 貴史 | 慶大 |
| 岡 謙太郎 | 大日本印刷 | 志村 哲 | 大阪芸大 |
| 榊原 祐輔 | 日本IBM | * 三好 和憲 | 筑波大 |
| 青柳 龍也 | 東大 工 | * 五十嵐 滋 | 筑波大 |
| 平賀 譲 | 情報大 | 笹川 昭美 | 筑波大 |
| 山木 順人 | 筑波大 | 大和田 省造 | 日上市役所 |
| 小沢 純子 | ナムコ | 酒井 仁 | ソニーテクトロニクス |
| 青山 宏 | 電総研 | 橘 敦広 | パシフィック工業 |
| 棟上 昭男 | 電総研 | 小野 実 | パシフィック工業 |
| 遠藤 幸一郎 | 松下電器 | 加藤 瑞江 | タイトー |
| 島内 剛一 | 立大 理 | 石塚 亮 | 凸版印刷 |
| 野瀬 隆 | 農工大 | 酒井 勝正 | 凸版印刷 |
| 高田 正之 | 農工大 | アルバート | リットミュージック |
| 吉清水 秀明 | 京王技研 | エレジーノ | |
| 斉藤 博 | 松下電器 | 大山 哲司 | リットミュージック |
| 中村 熱 | 電通大 | 坂崎 紀 | 聖徳学園短大 |
| 斉藤 隆文 | 東大 工 | 垣花 京子 | |
| 久保田 光一 | 東大 工 | * 有山 正孝 | 電通大 |

* 幹事

プログラム

7月15日

14:15 ~ 15:45

座長 中西正和 (慶大理工)

[01] 農工大における音楽研究の現状

野瀬 隆、高田正之 (農工大)

[02] 総合音楽情報システム P S Y C H E

五十嵐 滋、三好和憲、笹川瑠美 (筑波大)

大和田省造 (日立市役所)

酒井 仁 (ソニーテクノロジクス)

休憩

16:00 ~ 18:15

座長 三好和憲 (筑波大)

[03] 計算機を用いた楽曲演奏支援システム

平形貴史 (慶大工)

[04] コンピュータによる音楽演奏

高澤嘉光 (電通大)

[05] 人工音楽家としての計算機

川野 洋 (都立工科短大)、磯部俊夫 (航技研)

休憩

19:00 ~ 19:45

座長 三好和憲 (筑波大)

[06] 楽譜入力システムと逆演奏について

中西正和 (慶大理工)

自由討論

7月16日

09:00 ~ 09:45

座長 有山正孝 (電通大)

[07] 知識工学手法による日本旋律の解析

坪井邦明 (東大生研)

休憩

10:00 ~ 12:00

[00] パネル討論『音楽と計算機』

富田 勲 (音楽家)、中西正和 (慶大理工)、高澤嘉光 (電通大)

五十嵐 滋 (筑波大)、島内剛一 (立大理)

(司会) 有山正孝 (電通大)

休憩

- 13 : 30 ~ 15 : 45 座長 島内剛一 (立大理)
- [08] 音楽学における計算機の可能性
- 坂崎 紀 (聖徳学園短大)
- [09] 計算機による編曲とそのためのデータベースの実現
- 青山 宏、棟上昭男 (電総研)
- [10] 音楽データベースについて
- 山本順人 (筑波大)
- 休 憩
- 16 : 00 ~ 18 : 15 座長 高澤嘉光 (電通大)
- [11] Prologとcode progression
- 青柳龍也 (東大工)
- [12] 知識工学的手法の音楽理解・解釈への適用について
- 平賀 譲 (情報大)
- [13] 楽譜情報の計算機による表現
- 齊藤隆文、小方一郎、久保田光一 (東大工)

自由討論

- 7月17日
- 09 : 00 ~ 10 : 30 座長 五十嵐 滋 (筑波大)
- [14] 楽音合成プログラムの展望
- 中村 勲 (電通大)
- [15] トツパン スキャンノート システムによる楽譜作成
- 石塚 亮、酒井 勝正 (凸版印刷)
- 休 憩
- 10 : 45 ~ 11 : 30 座長 五十嵐 滋 (筑波大)
- [16] ニューメディア用音楽製作システムの開発
- 岡 謙太郎 (大日本印刷)
- 11 : 30 ~ 12 : 30 座長 有山正孝 (電通大)
- [17] 全体討論

以 上

本 PDF ファイルは 1985 年発行の「第 26 回プログラミング・シンポジウム報告集」をスキャンし、項目ごとに整理して、情報処理学会電子図書館「情報学広場」に掲載するものです。

この出版物は情報処理学会への著作権譲渡がなされていませんが、情報処理学会公式 Web サイトに、下記「過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について」を掲載し、権利者の検索をおこないました。そのうえで同意をいただいたもの、お申し出のなかったものを掲載しています。

https://www.ipsj.or.jp/topics/Past_reports.html

過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

情報処理学会発行の出版物著作権は平成 12 年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (=情報処理学会電子図書館) で公開されているにも拘らず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和 59 年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、この度学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者（論文を執筆された故人の相続人）を探し出して利用許諾に関する同意を頂くことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思います。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止致します。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

期間：2020 年 12 月 18 日～2021 年 3 月 19 日

掲載日：2020 年 12 月 18 日

プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>